

# ピアチエーレの紹介

当院では、精神障害をお持ちの方の社会復帰を多方面でサポートしております。

## 【多機能型事業所ピアチエーレ】

多機能型事業所ピアチエーレが開設してから2年が経ち、地域での活動にも力を入れてまいりました。今回は事業所外での取り組みについてご紹介させていただきます。

### ◇【パンの地域販売開始】

平成23年4月より毎週金曜日に登別観光案内所「鬼なびステーション」（やきとりの一平登別店様隣）にて焼きたての菓子パンと角食パンの販売を開始しました。

### ◇【カフェ営業開始】

平成23年5月よりの登別市桜木町にある『ともかな』（NPO法人いぶりたすけ愛）のワンデイシェフ事業に参入し、毎週金曜日にカフェを営業しています。

### ◇【就労支援】

4名の方が一般企業に就職しました。また、就職に関するニーズに幅広くお応えできるよう「就職相談窓口」を新設しましたので、就職を目指す方や関心をお持ちの方にお気軽にご利用いただきたいと思います。

地域の皆様の声を聴く機会が増えた事で、利用者・スタッフ共々作業のやりがいや向上心が上がっているのを実感しています。当事業所では生活の安定から就職まで個別的なニーズに対応できる支援を行っています。新規の利用者も募集しており、見学・体験利用等も随時受け付けておりますのでご連絡お待ちしております。



鬼なびステーション



ともかな～トーストセット～

## 病院理念

- 1.精神障害者と高齢者を対象に、医療・保健・福祉のトータルケアを目指します。
- 1.自然環境との調和を大切に「癒される」病院創りを目指します。
- 1.チーム医療により良質で高度な医療と地域に開かれた機能的病院を目指します。
- 1.常に謙虚に患者様と御家族の気持ちを尊重し、心のこもった医療の提供を目指します。

## 基本方針

当病院は自然環境を生かし、アメニティの充実を図ると共に、精神科ではチーム医療における質の高い医療を追求しています。  
法人グループの各施設がそれぞれの役割を担い、医療・保健・福祉における連携と人権を尊重し、患者様並びに御家族との相互理解を深め、地域のニーズに合った信頼される医療の提供をいたします。

## 患者の権利

- 一人の人間としての尊厳を尊重され、丁寧に敬意をもって扱われる権利を有する。
- 差別されことなく、公平かつ適切で良質な医療を継続して受けられる権利を有する。
- 医療に関する個人情報保護されるとともに、私的なことに干渉されない権利を有する。
- 自己に関する医療行為や医療情報に関して十分な説明を受けることができ、その上で、治療方法に関して選択できる権利を有する。
- 医療費、公的援助に関する情報や説明を受けることができる権利を有する。
- 健康や病気、保健サービスなどについて教育を受ける権利を有する。
- 医療の充実・改善をはかるために、苦情や意見を申し立てることができる権利を有する。



特定・特別医療法人  
社 団 千 寿 会 **三 愛 病 院**

〒059-0493  
北海道登別市中登別町24番地12  
TEL (0143) 83-1111  
FAX (0143) 83-1361

### <直通TEL>

歯科口腔外科 (0143) 83-3991  
医療福祉相談室 (0143) 83-3207  
地域生活支援室 (0143) 83-3572  
精神科デイケア (0143) 83-2520

### <URL>

<http://www.sanai-hospital.or.jp>

### <E-mail>

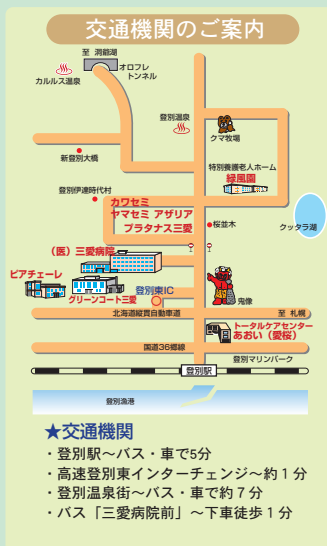
[post@sanai-hospital.or.jp](mailto:post@sanai-hospital.or.jp)

### <診療科目>

精神科・老年精神科・内科  
老年内科・心療内科・消化器内科  
皮膚科・リハビリテーション科  
歯科口腔外科

### <診療時間>

平日 午前9時 ～ 12時  
午後1時 ～ 5時  
土曜日 午前9時 ～ 12時



作成：三愛病院 広報委員会

# とおたるけあ

第16号



日本医療機能評価機構認定病院



登別市札内町にて撮影

## 法人の現況について



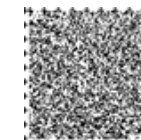
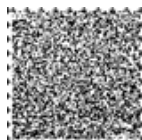
三愛病院 院長  
千葉 泰二

当院のある登別市は、西胆振（二次医療圏）の東部に位置しており、高齢化率約30%（人口約5万2千人）で、認知症高齢者が次第に増加していることもあり、平成22年10月より、北海道3番目の認知症疾患医療センター・西胆振病院群（三愛病院、恵愛病院、伊達赤十字病院）として指定されました。通常は、各病院で、専門医療相談、鑑別診断とそれに基づく初期対応、身体合併症・周辺症状に対する急性期対応等を実施し、6ヶ月に1回、3病院の活動状況についての打ち合わせ会議をおこない、その後西胆振各市町村の地域包括支援センターや行政の担当者にも参加していただき、西胆振認知症疾患医療連携協議会を開催しております。センターが運営されるようになってから、少しずつではありますが、かかりつけ医や地域の理解と協力、医療・介護間

連携が円滑になりつつあります。更に当法人として、認知症を含めた高齢者に対する地域包括ケアを充実するために、平成23年度内に小規模多機能型居宅介護の開設も予定しています。また、精神科病院にとって高齢精神障害者の合併症対策は喫緊の課題であり、非常勤で皮膚科、眼科、泌尿器科、消化器科各医師の診療も継続しております。

その他、毎年度3万人を超える自殺者の多くに気分障害等の精神疾患が存在することや、適応障害及び発達障害が増加していることもあり、平成23年4月から、東邦大学医学部心身医学講座、中野弘一教授の専門外来を、毎月1回（2日間）開設し、職場のメンタルヘルス等、心身両面のアプローチをしていただいております。

今後も、時代に合った精神疾患の変化に対応できるような診療体制を考えていきたいと思っております。





## 着任のご挨拶

精神科・内科医師 渡邊 伸弥

4月より精神科医師として勤務しております。3月までは札幌市の中江病院という精神科病院に勤務していました。三愛病院には5年前までお世話になっていまして、今回が2回目ということになります。三愛への初回の赴任は平成13年4月、今から10年前でした。あの頃と比べると今は、変革の波とでもいうような勢いを感じ、さらに医療の質的な面での発展には驚かされることや戸惑うことも多々あったこの3か月でした。それでも昔と変わらないところも随所に見出され、懐かしさに束の間とはいえホッとしたりしています。

嬉しかったのは以前に関わらせて頂いた患者様の多くの方が私のことを覚えていて下さったことで、5年の月日があっという間に短縮されたような気分になることもしばしば感じます。ただし5年の月日は確実に私の体力を低下させているようで、特に院内の階段の昇降時や近所を散歩するときにそれを感じるのですが、もう一度、身体を鍛えつつ自然に親しみ、微力ながら皆様のお役に立てればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



## 後期研修医のご紹介

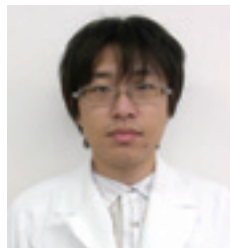
精神科医師 山口 賢太

当院では、精神科医療の普及・発展の為、研修医の受け入れを積極的に行っております。  
この度、平成23年4月から、以前より交流のある福岡県福岡病院より、山口賢太医師をお迎えしております。

はじめまして。今年4月より三愛病院精神科に赴任して参りました、山口賢太と申します。もともと福岡の出身ではありますが、今回、ご縁があつてこちらの病院で臨床に携わらせていただく機会を得ることができました。北海道は私にとっては大変寒く、着任した頃は凍えながら日々を過ごしておりました。最近になってようやく過ごしやすい感じしております。

着任して3ヶ月が経ちますが、優秀なスタッフのみなさんに支えられて、大変スムーズに診療を進めることができます。地域性なのかもしれませんが、こちらの病院は高齢の患者さんが多く、認知症や身体合併症の問題で悩まれている方が多いようです。私自身も以前に携わっていた分野とは異なる領域での診療になりますので、日々新しい発見があり、まだまだ臨床から学ばせていただくことが多く、日々研鑽を積ませていただいている状況です。

以上、手短ではありますがご挨拶とさせていただきます。今後とも宜しくお願い致します。



## 心療内科のご案内

平成23年4月15日より東邦大学医学部教授 心身医学講座の中野弘一医師が診察を行っております。

心療内科とは、病気を身体の他、心理面・社会面も含めた関係性を評価しながら総合的に見ていく診療科です。受診に関しては完全予約制となっておりますので、受診希望の方は当院ホームページをご参照または、お気軽に外来へお問い合わせ下さい。

尚、10月15日(土)、中野教授による市民公開講座を開催致しますので、参加のご希望がありましたら、三愛病院迄、お問い合わせ下さい(TEL:(0143)83-1111 FAX(0143)83-1361)

日時：平成23年10月15日(土) 13:30~14:10

場所：鉄南ふれあいセンター 3階ホール

講演：ストレスで傷んだ心と身体の治し方ー心療内科での取り組みー



## 機能評価Ver.6認定

事務部長 佐野 克幸

当院では、約2年間の更新準備期間を経て(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価審査における「書面審査」及び「訪問審査」を受審し当機構の定める認定基準を満たしていると認められ審査体制区分3(バージョン6.0)の更新認定(2回目)を平成23年1月23日から5年間受ける事が出来ました。書面審査表の作成や院内の整備等長期に亘り職員が努力した結果であると思えます。

今後もより一層医療の質を高め、更に良い病院づくりを目指していきます。



## 東日本大震災への人的支援活動について

平成23年6月27日~7月1日迄の5日間、人的支援活動へ当法人より  
こころのケアチームとして2名(看護師1名・PSW1名)が参加しました。

本館2階病棟師長 清水 和子

平成23年6月27日~7月1日迄の5日間、震災支援「こころのケアチーム」で福島県の避難所「ビッグパレットふくしま」に行ってきました。

色々な情報を聞くことにより不安と戦いながら福島に入りました。避難所はその場所だけが別世界でした。3ヶ月が過ぎて666人の被災者が居ました。テレビで見ていたそのままでした。そこに居る人は、想像していたよりも穏やかで大変だった当時の事を細かく話してくれました。「人生色々な事が起きるもの。前向きに考えていかなければ。今までも後ろを振り向かないで生きてきた」「帰りたいけど帰りたいけど、一時帰宅したけれどあの状態を見たらあの家には戻れない、住めない。気持ちを切り替えて次のことを考えている」そんな言葉を聞くと人の強さ、頑張りを感じました。

現場に行ってみると経験しないと分からない事がたくさんあり、良い経験をする事が出来ました。

地域生活支援室 精神保健福祉士 北條 智幸

海精会(海外交流を通して日本の精神医療を考える会)からの災害派遣事業の呼びかけによって「こころのケアチーム」への活動に参加する事となり、福島県群山市にあるビッグパレットふくしまを訪れ、被災者のこころのケアという事でトリアージを含めた診療、相談、情報収集を行う為、平成23年6月27日~7月1日迄の5日間、支援活動に参加させて頂きました。

被災者が自立して生活できる様「過度な支援」を控えながらの支援を求められる中で、被災者はこれまであったものを奪われる喪失感や長期的な避難生活によるストレスを抱えている事、避難所で築いた人間関係が仮設住宅等に移る事で再度孤立してしまう不安感等、様々な問題を抱えているという事を身をもって感じました。

今回、被災された方が1日も早く安定した生活を送られる様に心からお祈り申し上げます。



## 研修報告について

当院では、患者様に質の高い医療を提供出来るよう  
職員の研修参加を積極的に行っております。

## 第39回 精神医学学会に参加して

精神科デイケア 作業療法士 岩佐 真澄

今回、7月14日・15日に行われた精神医学学会へ、『デイケアにおけるクラブ活動(小集団活動)のアンケート調査からみてきたもの』を演題に発表者として参加させて頂きました。全国から2,000人以上が参加、また300題もの発表があり、自身の貴重な発表体験と共に、他院の様々な研究発表を聴く事ができ、今後の当施設の取り組みに大変参考になりました。精神医学は年々発展を遂げており、精神科デイケアにおいてもその在り方が変わってきております。新しい時代のニーズに応えるため、新たな取り組みが求められつつある中で、このような研修に参加でき多くの学びを得た事は、利用者様の生活の質の向上に向けても大変意義のあることだと感じております。この経験から得たものを他職員と共有し、当院の発展と利用者様へのより良い支援へ繋げていきたいと思えます。



## 第11回 北海道病院学会に参加して

西2階看護師 黒澤 直子

7月9日に北海道病院学会がホテルロイトン札幌において開催され、私は西2階病棟を代表し『認知症患者様の転倒予防運動の取り組み』についての研究成果を発表させて頂きました。この学会は6つの会場で164の演題が発表され、他病院・他職種の発表を聴くことができ、すぐに当病棟でも実践できそうな知識を習得することができました。またチーム医療についての講演を聴き、多職種との連携が大切であることを改めて感じました。当院の理念でもある『チーム医療』の一員である看護職は、患者様の一番身近に接しているため、看護職の担う使命は重大であります。

患者様にとって一番良い方向に向かうためにはどうすれば良いか、今の私の出来ることは何かを考えながら援助を行っていききたいと思います。